（1）　明治20年創刊　第35652号（第3種郵便物認可）　（日刊）

観覧車　眺望は県内一

9年春に開設予定　観光基盤　強化図る

県、行革委設置で検討へ

職員配置や事務改善

ファミリーパーク　渋川市が計画

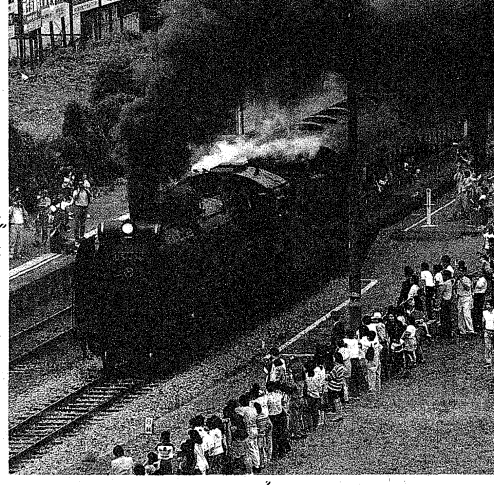
北毛初の遊園地整備

渋川市は北毛では初めての大型遊具を備えた遊園地「ファミリーパーク」（仮称）を建設することになり、基本計画の策定に入った。本年度中に実施設計まで作成し、来年度には着工、平成9年春のオープンを目指す。建設予定地は同市金井の伊香保温泉へ向かう県道渋川・松井田線沿いの山林で、標高が高いうえ高台になっているため、利根、吾妻の山々や関東平野が一望できる場所。このため同市は、遊具の一つに観覧車を入れ「県内一眺望のよい観覧車」を売り物にしていく考え。周辺には伊香保温泉や伊香保グリーン牧場など既存の観光地があり、「こうした観光地と共存共栄できるような施設にしたい」という。

ファミリーパークは、自然林、標高約五〇〇メートルの高台で、眺望は抜群。このうえ五万坪の広大な敷地を活用して遊園地として整備する。大型遊具のほか、広い敷地を活用して差生の広場や遊歩道などを設け、家族連れが一日のんびりと自然とふれあえる公園にする。

どのような遊具を入れるかはまだ決定していないが、眺望を生かした観覧車はメーンの施設になりそう。観覧車と市民から支援施設が少なく、要望が寄せられていた、さらに、近くに伊香保温泉があるほか、隣接する温泉には伊香保ライン・牧場、北群馬郡榛東村には豆腐作り館やハルナアグリ（川島駅）ができた場合には、立地的にも駅に近いことから、首都圏からの観光客がいっそう上に増えると予想されるため、若者向けの遊具なども考えるとも発言されている。このほか植樹にも手を入れて、特色のある公園にしたいと考えて、メーンの樹木には桜やツツジなどが候補に挙がっている。

運営は財団をつくって行う計画。同市は財団の基金として本年度一億円、来年度一億円をそれぞれ出資する。同市は「周辺の観光施設と客を奪いあうのではなく、相乗効果が出るような魅力ある遊園地をつくりたい」と話している。



代替バスにCI導入

統一マークでアピール

県が検討

公共交通機関の利用促進に向け、県は二十九日までに、代替バスを対象としたC-I導入の検討を始めた。県内の代替バス十六系統、車両九十四台に統一したシンボルマークを採用し、「マイ・バス意識」を高める。将来的には県内バスの共通のイメージが残る代替バスを地域に密着した新しい交通手段としてアピールする。統一マークは島忠デザイン事務所が無償で作成し、関係市町村や民間事業者と調整して年度内の決定を目指す。バスの車体にペインを施すなどして活用する方針だ。

さらに県は本庁の配置の一体化や将来の財政難となっている交通政策課を「地域交通政策課」に改称するなど、「地域の個性や尊重される時代にあって、色の統一化は県の押しつけにもつながりかねない。慎重に考えていきたい」としており、今後の進展が注目される。

代替バスは路線バスの相次ぐ廃止に対応し、市町村や民間事業者が国や県の補助を受けて運営している。県は前年度、代替バス六十一系統、同十八人以下の小型バス二十一系統、同十人以下の軽自動車一系統、同十人以下の「タクシー」九系統と、市町村が運営する代替バス十二系統、乗車定員十人以下の乗り合いバス